

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成 21年 7月 31日

【評価実施概要】

事業所番号	0172000580		
法人名	あんしん ケアホーム 和光株式会社		
事業所名	あんしん ケアホーム 和光		
所在地	〒047-0002 小樽市潮見台2丁目3番4号 (電話) 0134-23-1777		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4F		
訪問調査日	平成21年7月15日	評価確定日	平成21年7月31日

【情報提供票より】 (平成21年6月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	3月	15日
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27	人
職員数	32人	常勤22人,	非常勤10人,	常勤換算28.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての	1～	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円		
その他の経費(月額)	水道光熱費 22,000円、 暖房費 10～4月 7,000円		
敷金	有(円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,150 円		

(4) 利用者の概要(6月25日現在)

利用者人数	26名	男性 8名	女性 18名
要介護1	5名	要介護2	3名
要介護3	11名	要介護4	6名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 83.2歳	最低 60歳	最高 94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	和賀内科、朝里病院、南小樽病院、山口歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

あんしんケアホーム和光は、地域の中で利用者の終の棲家となることを目指し、地域密着型事業所として利用者本位のゆったりとして穏やかな生活が営まれることができる事業所である。建物は、畳の部屋を含めた多目的に利用できる広いホールを持ち、共同空間、居室共に広く、ユニットごとに車椅子対応のトイレを備え、恵まれた居住空間の事業所である。過去に3人の看取り経験があるが、職員に看護師の有資格者3名がおり職員一丸となって看取りを支援し、家族の安心と感謝に繋がっている。又、ボランティアによる多彩な訪問行事が行われ、利用者の生活を和ませている。運営者は、事業所の地域資源としての還元にも意欲を持っており、今後に期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回、災害対策が改善課題として挙げられたが、職員は消防署の自衛消防訓練に参加して学び、事業所内でも利用者を含め避難訓練を定期的の実施している。今後は、運営推進会議を通して、昼夜を想定した訓練や地域住民の協力体制など更なる取り組みを行ってゆく。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者は、評価の意義を良く理解しており自己評価は、各ユニット毎に職員全員で項目毎に話し合い、検討して作り上げている、また職員の意識向上にも繋げている。外部評価で出された課題は、職員の全体会議で取り上げ周知して事業所の運営に反映させている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は定期的開催されている。事業所の運営状況や現状を報告し、活発に意見交換や質疑応答がなされ、取り上げられた議題は、利用者の生活の質向上に繋げている。又、運営者は、運営推進会議を通し地域との交流が日常的に円滑、且つ活発に行われるよう、熱意を持って取り組んでいる。
重点項目③	職員は、家族の来訪時、気軽な対話を心がけ、また電話や手紙を通して利用者の暮らしぶりや健康状態を伝えている。内部、外部の苦情相談窓口を整備し、家族からの意見や要望も気楽に表出できるよう雰囲気作りに配慮している。又出された意見などは職員に周知し、運営に反映させる体制も整えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、地域との連携を図っている。事業所の行う和光祭りには、地域の人々もお誘いし、利用者、家族共々交流している。又、各種ボランティアの受け入れも盛んで、保育園児、学生との交流やフラダンス、よさこいソーランなども楽しんでいる。事業所に講師を招き和紙工芸、絵手紙の活動もあり、地域との連携も次第に深まっている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員の意向を反映させた事業所独自の理念を掲げ、事業所の見易いところに掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、各自、理念の記入されたカードを携帯し、常に振り返りながら理念に基づいた実践に取り組んでいる。又、全体会議や朝の申し送り時には職員全員で理念を復唱し、理念の共有と確認をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の長寿会、敬老会に参加している。事業所からも和光祭りなど地域の人々に参加を呼びかけ交流しながら楽しんでいる。事業所には、地域の子供神輿も立ち寄り利用者を楽しませてくれる際には、事業所からジュースを振舞って交流を深めている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者は、評価の意義を良く理解し、自己評価は、ユニット毎に職員全員で項目毎に話し合い、纏めている。外部評価で出された課題は、自己評価と共に事業所のケアの質向上に反映させている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催され、議事録を纏めている。事業所からは行事やサービスの現状等を報告し、活発な意見交換をして、地域における事業所の理解や協力体制の構築に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、事業所からの報告や介護保険業務、生活保護の相談等で行き来する機会が多い。運営者は、事業所の地域に対する社会資源としての役割等にも積極的に取り組み、共有化を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	職員は、家族に対し電話や手紙での報告やお知らせのほか、事業所の家族来訪時には会話を心がけ、利用者の健康状態や暮らしぶりを報告している。季刊誌「和光だより」を発行し、行事や利用者のスナップ写真を載せている。金銭管理も整備されており、毎月家族に報告して、家族のサインも貰っている。	○	職員の離職や異動は、利用者ばかりでなく家族も心配や不安に繋がるので、出来る範囲で、日常的に報告できる対応や工夫が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の内部、外部の苦情相談受付窓口は、重要事項説明書に明記しており、苦情対応システムが整備されている。職員は、家族の来訪時など気楽に意見を表せるように雰囲気作りにも配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の止む得ぬ離職や異動は最小限度にとどめるよう配慮している。建物の構造上、職員利用者は顔をあわせる機会も多く、また、3ユニット合同の行事もあり、職員は、利用者との馴染みの関係を大切にしながら取り組みを行い、ユニット間でも支援しあっている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、内部、外部の研修や講習会には職員の希望や段階に応じた受講を促している。研修後はレポートを作成し、全体会議で報告し全職員に周知して共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡協議会に加盟し、勉強会や講演会に参加して交流を図っている。今後は、職員間の相互訪問など交流を積極的に行い、サービスの質の向上に反映させるよう取り組んでゆきたい。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所の利用開始前には、本人家族の事業所見学や話し合いを行い、また施設長は何度も病院等を訪問し、本人が納得し安心した入居となるような配慮と工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者との関係性を大切にし、穏やかでゆったりとした対応を心がけ、利用者の得意な事、興味のあることを把握し、一方的にならない支援を心がけている。職員は人生の先輩としての利用者から教わることも多々ある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者一人ひとりとの日常会話や心身の状況、生活歴などから、本人の思いや意向の把握に努めている。表出の困難な場合は本人の全体の状況から利用者本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット会議を行い、利用者の日々の記録を基に話し合いを重ねて、医療関係者や家族の情報も取り入れて、介護計画を作成している。介護計画は家族に報告し確認印をもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況に変化があった場合は、その都度ユニット会議を開き、見直しを行っている。3ヶ月に1度ケアマネジャーを交えてモニタリングを行い、本人、家族の意向も反映させた見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	建物が広く、以前デイサービスも行っていた関係で、広い浴槽があり、利用者はゆったりとした入浴をしている。畳のあるデイルームでは、地域住民や学生のボランティア、フラダンスなど多彩な活動が繰り広げられ、利用者を楽しませている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所では、本人の希望により入居前からのかかりつけ医の受診を支援している。身体的に受診移動が困難になったときは、家族の納得の上、事業所の提携病院の往診を利用している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所では、重度化や終末期に向けた指針を作成し体制を整えている。利用者の状態の変化に応じて家族、医療との連携を取り話し合いを重ね、その都度対応や方針の共有を図りながら、支援をしている。過去に3人の看取りを経験している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者のプライドやプライバシーを大切にし、一人ひとりの尊厳に配慮した対応や言葉使いを心がけている。個人情報保護法を理解し、記録等の個人情報については管理保管の徹底に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、その時々々の状態や状況に合わせ、一人ひとりのペースに合った利用者本位の暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備や味見、配膳、下膳などその人の力量に応じて、職員と共に行っている。食事時には静かな音楽を流し好きなテーブルで職員と会話しながらゆっくりと食事をしている。きざみ食やミキサー食の利用者には、自然体でさり気ない職員の介助が行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の見守りや介助を受けながら、週2回大浴場で午前中に入浴している。一人ひとりのタイミングや、状況、希望によってはユニットでの個人入浴も支援している。シャワー浴、足浴の人もいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の持てる力を支援しながら、新聞たみ、食事作りなどのほか、カラオケ、絵手紙、和紙工芸など定期的にボランティア講師を招いて楽しみごとや気晴らしの工夫をしている。、ユニットの共同空間が展示スペースとなり利用者の作品が展示されていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買物のほか、事業所の庭での外気浴を楽しんでいる。周辺は坂道が多い環境なので車でのドライブが多い。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、鍵をかけることの弊害を理解し、日中は玄関の鍵をかけていない。利用者の心身の状況によって安全が確認できない場合には、職員の目の届かない非常口に鍵をかけることがあるが、利用者の自由で安全な暮らしのための見守り優先の工夫も怠っていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員は、消防署主催の自衛消防訓練に参加し消火、通報、避難訓練を学び、事業所内でも利用者と共に避難訓練を実践している。運営者は、昼夜想定訓練や運営推進会議を通して地域との連携について取り組んでおり、災害時に備えた食料品の確保もできている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	事業所の食事献立、食材は外部の専門業者に委託し、ユニット毎に調理している。栄養バランス、カロリーなどが解り、食事量水分量などは一人ひとり記録されている。きざみ食、とろみ食の利用者もおり、きめ細やかな対応がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子対応の広々とした共用空間であり、オープンキッチンからは各居室が見え、車椅子対応のトイレはユニット毎に3ヶ所あって、ゆったりと落ち着いた雰囲気である。季節の花や利用者の作品が飾られて、生活感のある装飾と共に、利用者の自由な暮らしが確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具が持ち込まれ、手作り作品や写真などが飾られ、その人らしい居室となっている。洗面台、手すり、ナースコールも設置されている。一人ひとりが居心地よく安心して過ごしている様子が覗える。		

※  は、重点項目。